

(2024 年度) 日本認知・行動療法学会 SIG 活動報告書

1. 日本認知・行動療法学会 SIG 名 (スポーツと認知行動療法 SIG)
2. 記入者 (立命館大学 井上和哉)
3. 一年間の活動実施報告 (各企画の日付、SIG の参加者、実施した活動の内容や成果、業績などについて報告してください。なお、SIG で開かれる活動において、年会費や参加費などで収入が発生した場合、収支報告 (様式任意) を別途提出してください。)

	活動内容、成果、業績等
9 月 23 日	日本認知・行動療法学会第 50 回記念大会 ・自主企画シンポジウム (SIG としての活動報告) タイトル:「スポーツ領域に対する Acceptance and Commitment Therapy—普及と発展に向けて必要なこと—」 企画、話題提供:井上和哉 (立命館大学)・栗林千聡 (東京女子体育大学)、 話題提供:並木伸賢 (新潟医療福祉大学)、指定討論:武藤 崇 (同志社大学) ・SIG ネットワーキング 学会期間中にスポーツと認知行動療法 SIG に関心がある者が集い、情報交換や交流を行った (90 分間)。
11 月 29 日	第 4 回スポーツ×CBT (認知行動療法研究会) 発表者 高士真奈先生 (桜美林大学) タイトル:アスリートの心理サポートにおけるケースフォーミュレーション
3 月 4 日	第 5 回スポーツ×CBT (認知行動療法研究会) 発表者 上田寛先生 (広島大学) タイトル:スポーツ集団における心理的安全性とアスリートのメンタルヘルスとの関連について (これまでの研究と今後の構想) 発表者 平田大智先生 (関西学院大学)

	タイトル：今後のシンポジウム企画について 上記の研究会によって、アスリートが置かれている状況や立場の理解を深め、今後、どのような心理的支援および研究を実施していくことができるかについて議論を深めた。また、研究会の実施は研究者間ネットワークの構築に寄与し、共同研究の実施にも繋がっている。
--	---

4. 次年度の活動予定（300 字程度）

・①スポーツ×CBT（認知行動療法研究会）を3回程度実施する。研究会では、毎回、2名程度が研究、事例、研究構想などを発表し、それに対してディスカッションを行う。参加者についてはSIGのウェブページより随時募集中である。②日本認知・行動療法学会第51回大会にて、SIG企画のシンポジウムを実施する。また、学会期間中にSIGのブースにてSIGメンバーおよびSIGに関心がある者で交流を行う時間を設ける。③9月頃に対面での懇親会を行う予定である。④2025年度内に一般の方やアスリート向けの公開シンポジウムを開催し、アスリート支援の研究内容を広く届けることを目指す。